



2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年8月7日
東

上場会社名 アキレス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 5142 URL <https://www.achilles.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 日景 一郎
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理本部長 (氏名) 徳田 等 (TEL) 03-5338-8167
 兼財務部長
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績(2026年4月1日～2026年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期第1四半期	21,361	16.2	1,175	164.0	1,528	306.4	1,022	314.5
2026年3月期第1四半期	18,378	△2.1	445	—	376	733.2	246	—

(注) 包括利益 2027年3月期第1四半期 1,705百万円(—%) 2026年3月期第1四半期 △334百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	74.83	—
2026年3月期第1四半期	18.05	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2027年3月期第1四半期	86,569	44,441	51.3	3,252.06
2026年3月期	83,628	43,282	51.8	3,167.21

(参考) 自己資本 2027年3月期第1四半期 44,441百万円 2026年3月期 43,282百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	0.00	—	40.00	40.00
2027年3月期	—				
2027年3月期(予想)		0.00	—	50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2027年3月期の連結業績予想(2026年4月1日～2027年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	82,500	0.9	2,200	△26.0	2,000	△49.0	2,200	3.9	160.99

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年3月期1Q	14,562,714株	2026年3月期	14,562,714株
② 期末自己株式数	2027年3月期1Q	897,121株	2026年3月期	896,793株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2027年3月期1Q	13,665,761株	2026年3月期1Q	13,667,064株

- ※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等の注記)	10
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	11
(収益認識関係の注記)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、米国は堅調に推移し、欧州も底堅く推移しましたが、中東情勢を巡る地政学的リスクや米国の通商政策動向など不安定な状況が継続しました。また、中国は内需の不振で低迷が継続しました。

日本経済は、雇用・所得環境の改善や個人消費の持ち直しを背景に緩やかな回復基調で推移しました。一方で、原材料価格・エネルギーコストの高止まりに加え、中東情勢の緊迫化や為替相場の変動など、先行き不透明な状況が継続しました。

このような事業環境のもと、当社グループにおきましては、世界に、驚き・喜び・感動を提供し、人々の生活を豊かにする『グローバル ソリューション プロバイダー』を長期的な目標に掲げた『中期経営計画－FY25～FY27－』に基づき、社員一人ひとりの好奇心、多様な能力、ユニークなアイデア、ひらめきを大切に、様々なテクノロジーを組み合わせたソリューションで社会に貢献することを目指しております。具体的には、3つの全社戦略（① 選択と集中の徹底、② 新たな価値の創造、③ グローバル戦略の推進）を柱に、人材力や生産性・技術力等の事業基盤の高度化に取り組むとともにサステナビリティ経営を推進し、収益力の再構築・強化に取り組んでおります。

当第1四半期連結累計期間においては、中東情勢に起因する原材料供給の先行き不安や調達コスト上昇に対し、サプライヤーと連携した安定調達ならびに製品の安定供給に注力するとともに原材料価格の上昇に対応した適正な販売価格の改定を進めました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、21,361百万円（前年同四半期比16.2%増）となりました。エレクトロニクス・メディカル分野向けのフィルム製品やエレクトロニクス分野向けの半導体ウエハー搬送用部材等が引き続き好調に推移するとともに、航空機や自動車向けの車輻内装用資材が好調に推移しました。一方、シューズは国内市場での少子化や百貨店不振などを背景とする消費低迷の継続に加え、価格改定に伴う販売数量の減少等により低調に推移しました。

営業利益は、1,175百万円（前年同四半期比164.0%増）となりました。エレクトロニクス分野及び収益性の高いメディカル分野向けのフィルム製品やエレクトロニクス分野向け半導体ウエハー搬送用部材等の増収に伴う売上総利益の増加が大きく寄与したことに加え、製造現場における集約生産の推進等による原材料費及びエネルギーコストの削減など、一層の原価低減活動を進めたことによります。

経常利益は、営業利益の大幅な増加に加え、円安の進行に伴う為替差益201百万円や受取配当金80百万円等を計上したことにより、1,528百万円（前年同四半期比306.4%増）となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、1,022百万円（前年同四半期比314.5%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

なお、各セグメントの名称、主な重点分野、事業内容および製品は以下のとおりであります。

セグメントの名称	主な重点分野	主な事業内容	主な製品
第一事業部	エレクトロニクス分野 モビリティ分野 メディカル&ヘルスケア分野	車輻資材事業 化成品事業 ウレタン事業 工業資材事業	車輻内装用資材、 一般レザー・カブロン・ラミネート フィルム ウレタン 工業資材、衝撃吸収材等
第二事業部	コンストラクション&インフラ分野 セーフティ・アクティビティ分野	断熱資材事業 建装事業 防災事業	断熱資材 建装資材 防災対策商品等
シューズBU		シューズ事業	シューズ

<第一事業部>

車輻内装用資材は、航空機向けが引き続き好調に推移するとともに、自動車向けも日本、北米市場での自動車メーカーの生産台数増加により、前年売上を上回りました。

フィルムは、エレクトロニクス分野とメディカル分野向けが引き続き好調に推移したことに加え、中東情勢緊迫化に伴う供給の先行き不安による需要増もあり、前年売上を上回りました。

ウレタンは、寝具用が伸び悩みましたが、車輻用と雑貨用が堅調に推移したことから、前年売上を上回りました。

工業資材は、半導体ウエハー搬送用部材等の静電気対策品が引き続き好調に推移したことから、前年売上を上回りました。

第一事業部の当第1四半期連結累計期間の売上高は13,239百万円と前年同四半期に比べ2,327百万円の増収（前年同四半期比21.3%増）となりました。

セグメント利益は、エレクトロニクス分野や収益性の高いメディカル分野向けのフィルム製品、エレクトロニクス分野向け半導体ウエハー搬送用部材の増収に伴う売上総利益の増加に加え、製造現場における集約生産等を通じた一層の原価低減活動により、前年同四半期に比べ387百万円増加の974百万円（前年同四半期比66.1%増）となりました。

<第二事業部>

断熱資材は、畜産向けのパネル製品が好調に推移するとともに、中東情勢緊迫化を背景に断熱材市場全体で供給の先行き不安が生じたことによる需要増がありました。また、原材料価格の上昇を踏まえた価格改定等により、前年売上を上回りました。

建装資材は、住宅市場の低迷が続く中、中東情勢の緊迫化による原材料価格の上昇を踏まえた価格改定等により、前年売上を上回りました。

防災対策商品は、中東情勢の緊迫化による引布原反や管材部品の供給の先行き不安に伴う需要増等により、前年売上を上回りました。

第二事業部の当第1四半期連結累計期間の売上高は6,565百万円と前年同四半期に比べ1,080百万円の増収（前年同四半期比19.7%増）となりました。

セグメント利益は、断熱資材及び防災対策商品の増収に伴う売上総利益の増加に加え、製造現場における集約生産等を通じた一層の原価低減活動により、前年同四半期に比べ361百万円増加の876百万円（前年同四半期比70.3%増）となりました。

<シューズBU>

シューズは、国内市場において、コンフォートシューズブランド「アキレス・ソルボ」にて健康志向の高まりやライフスタイルの変化に対応した新製品を投入するとともに、主力ブランド「瞬足」では、滑りにも配慮した防水モデルなど機能性を高めた新製品を投入しました。また、ランニングシューズブランド「BROOKS」は、軽量性と柔軟性を両立しながら足への負担を軽減する新製品を投入したことなどにより、好調に推移しました。

海外市場においては、香港にアキレス・ソルボショップを新規出店したこともあり、好調に推移しました。

しかしながら、国内市場での少子化や百貨店不振などを背景とする消費低迷の継続に加え、価格改定に伴う販売数量の減少等により、全体としては前年売上を下回りました。

シューズBUの当第1四半期連結累計期間の売上高は1,556百万円と前年同四半期に比べ424百万円の減収（前年同四半期比21.4%減）となりました。

セグメント損失は、減収に伴う売上総利益の減少があったものの、販売費の削減や一層のコストダウン活動に努めたことにより、前年同四半期に比べ30百万円改善の74百万円（前年同四半期は105百万円のセグメント損失）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の財政状態は、総資産は86,569百万円で前連結会計年度末に比べ2,941百万円増加しました。

資産の部では、流動資産は48,568百万円となり前連結会計年度末に比べ1,923百万円増加しました。これは主に、その他流動資産が577百万円減少しましたが、電子記録債権が1,301百万円、棚卸資産が1,085百万円増加したことによります。固定資産は38,000百万円となり前連結会計年度末に比べ1,018百万円増加しました。これは主に投資有価証券の時価評価での増加によるものであります。

負債の部では、流動負債は23,674百万円となり前連結会計年度末に比べ1,173百万円増加しました。これは主に、未払法人税等が656百万円、その他流動負債が231百万円減少しましたが、支払手形及び買掛金が2,179百万円増加したことによります。固定負債は18,452百万円となり前連結会計年度末に比べ609百万円増加しました。これは主に、繰延税金負債が612百万円増加したことによります。

純資産の部は44,441百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,158百万円増加しました。これは主に、退職給付に係る調整累計額が164百万円減少しましたが、その他有価証券評価差額金が639百万円、利益剰余金が476百万円、為替換算調整勘定が200百万円増加したことによります。以上の結果、自己資本比率は51.3%となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、2026年5月12日に公表した2027年3月期の連結業績予想を修正しておりますので、詳細につきましては、本日（2026年8月7日）公表の「通期業績予想の上方修正及び配当予想の修正（増配）に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,748	9,964
受取手形	234	100
電子記録債権	7,685	8,986
売掛金	13,799	13,832
商品及び製品	8,953	9,114
仕掛品	1,569	1,813
原材料及び貯蔵品	3,197	3,878
その他	1,558	981
貸倒引当金	△101	△103
流動資産合計	46,645	48,568
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,140	8,143
機械装置及び運搬具（純額）	3,352	3,363
土地	4,107	4,108
建設仮勘定	2,325	2,398
その他（純額）	1,344	1,416
有形固定資産合計	19,269	19,431
無形固定資産	361	367
投資その他の資産		
投資有価証券	7,844	8,735
退職給付に係る資産	8,775	8,730
繰延税金資産	138	118
その他	648	673
貸倒引当金	△54	△56
投資その他の資産合計	17,351	18,201
固定資産合計	36,982	38,000
資産合計	83,628	86,569

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,809	9,989
電子記録債務	1,128	1,171
短期借入金	6,900	6,900
未払金	2,199	2,037
未払法人税等	809	152
その他	3,655	3,424
流動負債合計	22,501	23,674
固定負債		
長期借入金	10,250	10,250
繰延税金負債	3,431	4,043
退職給付に係る負債	3,760	3,772
資産除去債務	372	372
P C B廃棄物処理引当金	21	-
その他	8	14
固定負債合計	17,843	18,452
負債合計	40,345	42,127
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,640	14,640
資本剰余金	3,660	3,660
利益剰余金	15,490	15,966
自己株式	△1,330	△1,331
株主資本合計	32,460	32,936
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,604	2,244
繰延ヘッジ損益	0	7
為替換算調整勘定	4,183	4,383
退職給付に係る調整累計額	5,034	4,870
その他の包括利益累計額合計	10,822	11,505
純資産合計	43,282	44,441
負債純資産合計	83,628	86,569

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
売上高	18,378	21,361
売上原価	14,367	16,568
売上総利益	4,011	4,793
販売費及び一般管理費		
運送費及び保管費	1,348	1,362
広告宣伝費及び販売促進費	143	154
貸倒引当金繰入額	5	3
給料手当及び福利費	1,394	1,454
退職給付費用	△5	△33
旅費交通費及び通信費	100	96
減価償却費	39	44
その他	539	534
販売費及び一般管理費合計	3,565	3,617
営業利益	445	1,175
営業外収益		
受取利息	2	0
受取配当金	60	80
持分法による投資利益	29	42
為替差益	-	201
不動産賃貸料	11	10
その他	46	105
営業外収益合計	149	441
営業外費用		
支払利息	29	81
為替差損	177	-
支払補償費	2	1
その他	9	6
営業外費用合計	218	89
経常利益	376	1,528
特別利益		
固定資産売却益	1	1
特別利益合計	1	1
特別損失		
固定資産除却損	13	18
特別損失合計	13	18
税金等調整前四半期純利益	364	1,510
法人税、住民税及び事業税	78	84
法人税等調整額	38	403
法人税等合計	117	487
四半期純利益	246	1,022
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	246	1,022

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
四半期純利益	246	1,022
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	141	639
繰延ヘッジ損益	△20	7
為替換算調整勘定	△516	154
退職給付に係る調整額	△106	△164
持分法適用会社に対する持分相当額	△79	46
その他の包括利益合計	△580	682
四半期包括利益	△334	1,705
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△334	1,705
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	第一事業部	第二事業部	シューズBU	計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	10,912	5,485	1,980	18,378	—	18,378
セグメント間の内部 売上高又は振替高	202	7	—	210	△210	—
計	11,115	5,492	1,980	18,588	△210	18,378
セグメント利益又は損失 (△)	586	514	△105	995	△550	445

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額△550百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(一般管理費)であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	第一事業部	第二事業部	シューズBU	計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	13,239	6,565	1,556	21,361	—	21,361
セグメント間の内部 売上高又は振替高	249	22	—	272	△272	—
計	13,489	6,588	1,556	21,634	△272	21,361
セグメント利益又は損失 (△)	974	876	△74	1,775	△599	1,175

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額△599百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用(一般管理費)であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)
減価償却費	624百万円	537百万円

(収益認識関係の注記)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第1四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年6月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計
	第一事業部	第二事業部	シューズBU	
日本	6,823	5,292	1,904	14,020
米国	2,130	96	—	2,227
その他	1,958	96	75	2,130
顧客との契約から生じる収益	10,912	5,485	1,980	18,378
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	10,912	5,485	1,980	18,378

当第1四半期連結累計期間(自 2026年4月1日 至 2026年6月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			合計
	第一事業部	第二事業部	シューズBU	
日本	8,346	6,415	1,460	16,223
米国	2,303	58	—	2,361
その他	2,589	91	96	2,776
顧客との契約から生じる収益	13,239	6,565	1,556	21,361
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	13,239	6,565	1,556	21,361